



Leafloop 渋谷友美

卒業制作のテーマは人体でした。細胞がいくつも寄り集まってできていて、常に再生と死滅を繰り返して人間は生きているということを知りました。そこで、人体が細胞でできているということを木で表そうと思いました。

几帳面な性格なので、木片一つひとつにヤスリをかける下準備に時間がかかったことと、心棒を立てる時に苦労しました。

どこまで細かくしていいのか、作品の作り込みの程度が分からなくなったり、最終的な目標が見えなくなったり、自分がやりたかったのはこれで良かったのかと、迷うこともありました。自分の想いがカタチになって完成できたことには満足ですが、計画性があればもっと完成度が上がったと思います。



彫塑

卒業制作

— 教育人間科学部・大学院教育学研究科 —

JAPANESE PAINTING

OIL PAINTING

DESIGN

SCULPTURE

EDUCATION OF ART

HISTORY WESTERN FINE ART

HISTORY OF ORIENTAL ART

こどものあとⅠ こどものあとⅡ 丸山葉子

楽しい授業で子どもたちの創造性、社会性を育むという論文を書いている、障害を持つ子どもたちが自分で遊び方を見つけることができたらすごいと思いました。粘土を好きな子が結構いたので粘土のプールみたいなものを作ったら面白いなど。何が大変って、300キロの粘土を運ぶのが重くて一番大変でした。

子どもたちのことが好きで、光を当てたかったのです。普段とは違って、粘土遊びをしている時はすごい集中力がありません。

学校教育課程は、卒業論文と卒業制作の二本立てなので苦労しましたが、「子どもに寄り添っているのが良くわかった」と先生に評価をもらった時、思わずジーンとききました。

大学院でもまた何か面白いことをやろうと思っています。



Leaf 江口妙子

子どものおもちゃをつくりたいという想いがありました。おもちゃって何だろう、遊びって何だろうと考えた時、実際に遊んでいる子どもたちを見てみようとして幼稚園に行きました。多くの子どもがしている行為が見えてきました。その要素を取り出して、組み合わせでいい形が生まれないかなと。それを表現するにはプラスチックしかなかったです。新しい素材に挑戦したので苦労しました。

完成度としては50点くらいで満足していません。時間があつたらもう少しこだわりを持って、きれいなラインが出せたと思います。

卒業制作展で、人の感覚に訴えかける、もしくは寄り添うものをつくるという自分のテーマを探し当てたような気がします。



BYO:BU 水落大介

今までレターセットなどの雑貨をつくっていましたが、個性的なデザインができず、ありきたりなものになっていました。そこで、以前から興味があった扇や屏風を取り入れ、和の雰囲気がある新しいデザインの雑貨を提案したいと考えました。一から形もデザインも考えることに、苦心しましたが、自分の部屋に置きたいと感じてもらえるような作品づくりを心がけました。

大学時代は、自由にやれる最高の時間です。目標をもって過ごしてください。

卒業制作
「こどものあと」「こどものあとII」

「遊びは子どもの自己表現」「遊びは真に於いて芸術である」という考えに基づき、子どもの創造力を高めることを目的としたワークショップを行いました。対象は内閣小中学校から卒業の14名の児童たちです。
「こどものあとI」はさくら小中学校1組、「こどものあとII」はさくら小中学校2組の作品です。

ワークショップ
ねんどのなかで遊ぶ

15cm

このような粘土（赤土）で遊ぶには、事前に粘土を柔らかくしておきます。

粘土の上で粘土遊び

ねんど「あと」です

さくら 1組

さくら 2組